

「外から見た日本」

政府の調べによると来年2017年に日本企業等が必要とするグローバル人材は411万人ですが、実際は168万人しか手当ができません。企業の8割がグローバル人材が不足していると言っています。ぜひ皆さんは日本だけでなく、世界で働こうと心がけてください。そのため英語は必須です。できればもう1か国語を勉強してください。知人・友人の輪が広がります。

外国人が日本に触れる機会がどのくらいあるのか、ざっと数字で見てみましょう。外国旅行する日本人は昨年1621万人でした。おそらく旅行者は旅先で外国人と触れ合うし、日本人と接する外国人の数はその数倍でしょう。一方日本を訪れるほぼ2,000万人(1974万人)に上ります。彼らが滞在中に接する日本人もその数倍になるでしょう。加えて外国に暮らす日本人132万人。日本に暮らす外国人223万人。こうした長期滞在者が交流する外国人、日本人の数はその数倍では利かない膨大な数に上るでしょう。

さらにメディア(新聞、雑誌、TVなど)を通して日本に触れる外国人は数億に上るとは確実です。殊にアニメを通して日本を知るようになった外国人のなかで、日本ファンになり日本に行きたかったという若者がキラキラした目で日本中を旅行し、買い物に一生懸命です。次頁にちょっと古いですが、2005年にヨーロッパのTVで放映されていた日本のアニメ番組があります。2000年生まれお人はどのくらいいますか?

皆さんがわくわくして観ていた番組をヨーロッパの同世代も観ていたのです。恐らく20歳代後半以下の世界の青年たちは同じ日本のアニメを観て育ったと言っても間違っていないでしょう。かつてのイタリアの首相、大臣たちも「アルプスの少女ハイジ」の大ファンでした。

今、日本を訪れる外国人が日本に対して一様に抱く印象は、清潔、正確、安全、安心、迅速、便利、おいしい、安い、親切、といったものです。少し大げさですが、外国人のなかには「日本は天国だ!」という人もいます。日本人の私たちは毎日の生活に慣れすぎていたので、なぜ天国なのだと首をかしげます。でも外国から帰ると周りを心配する必要ない、駐車場で乗り降り、銀行から出るときなど何も心配しなくてよいというのは、天国に近いリラックスさかもしれません。長いこと日本で暮らしたアメリカ人の子供がサンフランシスコへ帰って、「アメリカには自由がない」と両親に文句を言ったそうです。日本では子供どうし山手線に乗ってどこにでも出歩けました。女性が夜一人で帰っても、まず心配ありません。町中に警官の姿が見られないというのは世界でも珍しい国です。

どこでも何でも清潔できれいだというのも世界ではやはり珍しいのです。レストランで、日本人は最後に身の回りやテーブルをきれいにしてから立ち去ります。そうした良い習慣が徐々に世界に影響を与え始めているようです。アメリカの飛行機の座席も昔よりきれいになっています。

時間を守るというのも、当たり前ですが、社会でこれだけ徹底している国はないでしょう。90年代にロサンゼルスにいた時、サンディエゴ行き列車がなんの合図もなく発車したのに驚きました。中東のある国にいた時は、アポが何回も事前連絡なく無駄足、待ちぼうけになりました。そのつもりはあったのだが、それを妨げる事態が発生した。事態発生は絶対神の計らいに違いないから、そちらを優先した、とうのは現地人の間ではごく当然だったのです。「イスラムの心」という本を昔読んだおり、人との関係は二の次、三の次というくだりをなぜか頭の隅に引っかかっている、それが幸いしました。「どうして来なかった？なぜ連絡してこなかった？」と問いただしていただければ、それ以後お付き合いはお断りと言われたに違いありません。時間については文化で随分違いのある分野ですが、日本社会の時間厳守はやはり特徴的と言えます。

一人が何役も器用にこなすという才能も、国内にいと気がつかないのですが、外国人には驚きです。デパートでは一人が手際よくさっさと見事に包装してお釣りまできちんとくれる。私の経験では、注文するところ、お金を払うところ、包装をしてくれるところは、アメリカでは一般的に別々でした。食べ物の種類、便利さ、おいしさなどは旅行者には驚きの連続です。ドイツではおにぎりが大人気と聞いています。いつまでも寿司、すき焼きの日本ではなくなっているようです。町中でも秩序がきちっとして人が親切だと彼らは言っています。日本人はシャイなので自分から進んで外国人に声をかけて助ける例は多くないようです。英国人も似ていると聞いたことがあります、どうでしょうか？

こうした日本人の「日本人らしさ」とはどのようなものでしょうか。誰にでも分かる表現で私なりの大和言葉で言ってみると、「皆で工夫、とことん、きちんと、きれいに美しく、恥ずかしくなく、迷惑をかけず、お蔭さまで、どうも」となります。皆さんも考えて自分なりの「日本人らしさとは？」を考え続けてください。

日本人はいつも「どうすればより良くできるか」を考えてしまう傾向があります。JICAの専門家もつい現地の人よりもっと熱心に「より良く」するために汗をかくことが多くみられます。とことん、きちんとは日本人の完璧主義の精神構造を表します。百万個生産しても1個の不良品も許さないという厳しさです。恥ずかしくなく、お蔭さまでという精神の尽きるころには、「天」の思想があります。天に対して恥ずかしくなく、天に対し

てお蔭さまですという感謝の心があると思います。皆さんはご両親、祖父母から「お天道さまが見てるよ」と言われたことがありますか？（8～9割の生徒が挙手しました）欧米では今教会離れが進んでいます。宗教について彼らは「I am not religious but spiritual.」と言う人が増えていると聞きます。その意味では日本人は世界でも有数の spiritual な民族・国民だと言ってもいいでしょう。

でもお褒めの言葉ばかりではないことも確かです。「皆で」という癖が過ぎると、自分の言葉で自分の意見を言う習慣が希薄になりがちです。周りを見てモノをいう癖です。国際会議でもメモを読むしかできない。動議などシナリオになかった事態には自分の意見をはっきり主張できないということにもなります。引っ込み思案になり、何を考えているかわからないという外国人からの評価になってしまいます。

こうしたマイナスの見方もあるのですが、全体としてみれば日本人は信用できるというのが一般的な評価です。とにかく真面目で約束は守る、常により良くのために努力するという姿が外国人に映る日本人像です。

こういう日本人らしさを、誰にでもわかる言葉で表すとどういうことになるでしょうか。日本人とは何か、というテーマで沢山の本が出ています。私なりの優しい言葉で、「日本人らしい」という特徴を上げるとこうなります。「皆で工夫、とことん、きちんと、きれいに美しく、恥ずかしくなく、迷惑をかけず、お蔭さまで、どうも」

皆で工夫：日本人はグループで考え、「いつもより良く」を考える。JICAの専門家は援助の現地で相手国の人たちより熱心になってしまうことがよくあります。

とことん、きちんと；完璧主義といってもいいほどです。100万個メーカーが生産して1個の不良品も許さないという日系企業にこの特徴が表れます。

きれいに、美しく；日本人は美意識を重視します。欧米人の美意識とは少し異なります。水墨画など観る人の想像力に働き掛ける余白部分を重視します。西欧の画はキャンバス全部を塗りつくします。きれい好きは日本のどこにも見られます。日本人が座った席は飛行機でもレストランでも目立ってきれいです。ごみをまとめて捨てる、テーブルはきれいに拭いてある。今では外国人にもこの「良い習慣」が広まりつつあります。

「恥ずかしくなく」と「お蔭さまで」；誰に「恥ずかしくなく」か、誰の「お蔭さまで」なのか。突き詰めると私は「天」に対して言っていると思います。その意味で日本人は世界でも極めてスピリチュアルな民族・国民だと思います。

迷惑をかけず；欧米とアジアの家庭で両親が子供に躱ける第1は「自立」だそうです。日本では「思いやり」が第1です。「迷惑をかけず」という言葉も{思いやり}の中に入ります。

どうも；色々な場で使えるこの言葉は、あいまいではっきり言わない、つまり言わなく

でも相手は分かってくれるという思い入れがあります。知人の英国人はこうした特徴を「high context」と表現しています。言わなくても相手は分かっているから言葉を敢えて重ねてくどく言わない方がよいという価値観です。対するは「low context」で、これでもかこれでもかどく言葉を重ねるべきだという通念です。

皆さんもこの「日本人らしさ」を自分なりに考え続け、自分なりの言葉でまとめてみましょう。

ビジネス面で日本人らしさを発揮したのがカイゼンです。1980年代頃からトヨタで始まった「より完璧な製品をお客様により喜んでもらう」ための社員全員参加の運動です。どうすればより安く、より完璧に、より早く、それぞれの持ち場で皆で話し合っ工夫を重ねる運動です。欧米ではすぐにより進んだ技術で、より進んだ設備機械を入れることを考え、そのために大変な経費をかけますが、カイゼンは経費のかからない方法です。80年代はアメリカは日本が売るばかりでアメリカ製品をかわないと強く非難し、日本はアメリカ商品が国内に入らないように様々な障壁を設けていると抗議を重ねていました。いわゆる日米貿易摩擦です。欧米の企業は当初カイゼンに注目しませんでした。日本の自動車メーカーがアメリカに進出してカイゼンの効果を目の前に見て、競って自社に導入しました。日本製品の競争力の強さの理由が分かったのです。今やカイゼンはアメリカの辞書にでるほど有名になっています。

4日前の朝日新聞にエチオピアでもカイゼンが大人気だという記事が出ました。幼稚園からカイゼン運動を始めているそうです。8年前10人で始めたこの運動は、今や120人が指導する全国運動になりました。アフリカ全体に広めたいとも言っています。

こうした日本人らしさは、実は昔から変わっていないものが多いのです。ザビエルが日本に来た時代、当時ヨーロッパで最高の教育を受けたイエズス会の宣教師たちは、「自分たちは日本人より劣っている、世界で日本人ほど聡明な人々はいない、自分たちの方が野蛮だ」などと手紙に書き綴っています。幕末から明治維新にかけて日本を訪れた欧米人は「日本人は優しく、礼儀正しく、貧乏だけど卑屈でなく平等で、質素、清潔、秩序正しい」と驚きの言葉を書き記しています。

さてこれからの私たち日本人はどう世界のなかで生きるべきでしょうか。

まずどんな外国人の愛国心も尊重しなければなりません。そのためにはまず私たちが愛国心を持たないと理解できません。日本人らしさを優劣で考えてはなりません。優劣ではなく、違いなのです。それぞれの民族、国民に違いがあるからこそ、発展があります。違

う立場から日本と日本人を見て、初めて私たちが気が付かないことを教えられます。

そのなかで、「尊敬される日本人」になるために大事なことは、「何をするか」と同時に、あるいはそれ以上に「どういう人間になるか」を考えることです。これは学校では教えられず、会社でも教えてくれません。私も自分なりに「どういう人間になろうか」を考えました。これまで70年以上生きてきて沢山の人に出会い、そのなかで素晴らしい5人の人のことを考えました。どうしてあの人たちは素晴らしいのだろうか。そのなかには黒人のアメリカ人もいました。高校しか出ておらずホームレスも経験した人です。ロサンゼルス暴動の後、いち早く資金集めをして市、州、連邦政府より早く、焼け出された食品店に第1号の再建融資を果たしたNPOの創立者です。今やそのオペレーション・ホープというNPOの基金は20億ドル、2,000億円という世界でも有数の団体になって人々を助けるために働いています。ジョン・ブライアントというその会長は4人の大統領に登用されホワイトハウスの委員会の委員長の仕事もしています。

彼を含めた私の尊敬する、外国人を含めた人たちに共通しているのは、「爽やかで優しく、逃げず、あきらめない」という生き方です。新聞をにぎわすスキャンダルや挫折した人々をみると、やはり爽やかではないなあ、優しくないなあ、逃げてしまったなあ、など思い当たることが多いのです。皆さんも自分なりに、爽やかとはどういうことかなあ、優しくとはどういうことかなあ、などいつも考え続けてください。生き方とは年齢に関係なく、いつからでも始められる努力で死ぬまで続くもので、積み重ねられた人となりは世界のどこでも誰にでも通用する立派な共通語です。

もう一つ申し上げます。学校でも社会に出ても大事なのはコミュニケーション、すなわち人間関係です。人間関係を円滑に保つ秘訣を優しい言葉で表すと「おめでとう、ありがとう、ごめん、よろしく、どうぞ」の実行です。今から友達との間でも自分なりにこの言葉の意味を考えて行いで表せるようにすれば、世界の人々とも必ず友達になれます。世界に友達ができると自分の世界が広がります。ぜひ今から始めてください。

以上